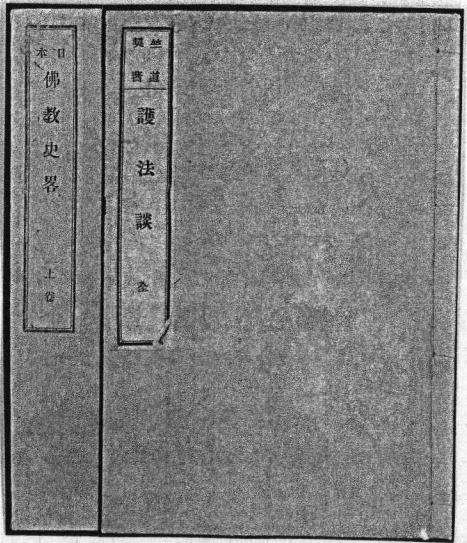


大内青巒 おほうちろ 佛教運動家。弘化二年四月十七日陸奥國生れ、大正七年十一月十六日歿（一八四五一九一八）。諱退、字卷之。別號多と羅の青巒、居士青巒、泥牛、無偏居士、藹々、藹々居士、藹々露堂、藹藹居士、藹藹青巒、螺泉窟、露堂等。源坦山等公學ぶ。維新後曲木願寺法主大谷光尊の待講となり、還俗して居士を稱す。明治七年佛教界初の雑誌「報回叢談」を、翌年初の新聞「明教新誌」を、その後と諸種の新聞雑誌を創刊。秀英舎を創立し、築地訓育院を設立するなど、印刷事業、社會事業、いと盡力。また島地默密等と傳會奉佛大同團を結成。大正二年東洋大學學長。

著書、少道製著「護法談」（校訂、明治十六年五月二日出版局・鴻盟社）、白「佛教史畧・上卷」（藹々居士名、明治十七年十一月二十五日自刊、鴻盟社）、白「冠註孝論」（明治十九年五月二十八日普濟宗大學林藏版、鴻盟社）、信佛論「教苑拾芳（露堂對問）」（佐々木東洋合著、明治二十年一月二十八日京都・誘善社）、大同團の「觀櫻館演說筆記（國會の創立の主意）」（辰巳小次郎合著、明治二十二年一月兒玉令兒編刊、鴻盟社發兌）、福田行誠垂示「松浦龜鑑」（校、再版、明治二十二年九月鴻盟社）、新「編佛教演說集」（合著・佐々木慧雲編、明治二十二年一月二十一日京都・明教書院）、大「家佛教演說集」（合著・田島教惠等記、増補出版、明治二十五年四月五日法藏館・京明教書院）、明治廿六年「復興講習會佛教講習話集」（合著・廣田一伊藤賢



「報回叢談」を、翌年初の新聞「明教新誌」を、その後と諸種の新聞雑誌を創刊。秀英舎を創立し、築地訓育院を設立するなど、印刷事業、社會事業、いと盡力。また島地默密等と傳會奉佛大同團を結成。大正二年東洋大學學長。

乘編、明治二十六年十月二十日佛教學會）、『遺教經講義』（蕩々居
 道編、明治二十八年二月十五日國母社）、『福徳』（同、明治二十九
 年十一月二十日國母社）、『こみりさのほ』（内題「富の小川」明治
 二十年四月八日基督教會）、『報恩』
 （明治二十一年一月一日京都・顯道學館施
 本會本部）、『報徳談』（横山徳内筆
 記、明治二十二年九月十日「白鴻盟社」）、
 『智嚴集講話・上巻』（明治二十九年
 四月二十五日鴻盟社）、『佛教の根本思想』（明治四十一年二月六日
 井冽堂）、『明治天皇と佛教』（大正元年九月十日「白鴻盟社」）、『昭
 憲天皇太后と佛教』（合著・法藏館編輯苟纂、大正二年五月十五日京都
 ・法藏館）、『自ら救ふ力』（大正六年七月二十日「中央出版社」）、
 『よろこび』（大正七年一月一日京都・顯道書院）、『修證義講話』
 （大内俊編、大正十一年五月二十八日鴻盟社「布教文庫」）、『應用自
 別引導法語文範』（昭和五年九月八日修養世界社）等。

